

山千寺と銅造観音菩薩立像(その1)

長野県内最古の仏像

山千寺の銅造観音菩薩立像は、地域の宝

「県内所在の最古の仏像として最も珍重すべき」と長野市の文化財の中で語られた仏像こそ山千寺の「銅造観音菩薩立像」です。この仏像は昭和12年5月25日に日本の「国宝」に指定されました。戦後は文化財法の改定により「重要文化財」という国宝に准ずる位置づけとなって今日に至っています。

像高が約30センチの小型の仏像ですが、その具体的な姿や評価は「長野市の文化財」に詳細に述べられています。又八幡太郎義家によってこの地にもたらされたとの伝承が残されていますが、由来などの詳細は今尚多くのナゾにつつまれています。

文化財はその地に長く伝わり地域の生活や文化に深くかかわって来たものです。郷土、地元の財産として後世に伝えていくべきものでしょう。改めて、山千寺の銅造観音菩薩立像の歴史的文化的価値について目を向けていただき、地域の宝として地域を挙げて大切に守っていきたいと願っています。

ここで、若槻地区と周辺地区の文化財所在の実情を表にしましたのでご覧下さい。

若槻地区に隣接する4つの地区の文化財所在を見ると、国からの指定を受けているのは若槻地区に一件あるのみです。それが「山千寺の銅造観音菩薩立像」です。

近隣地域の中でも唯一無二の重要文化財であり、しかも長野県下でも最も古い仏像が私たちの若槻地区に存在することは大いに誇りとすべきことです。

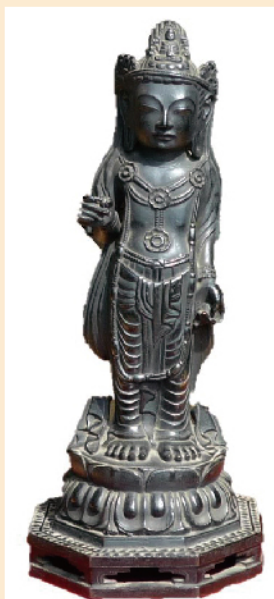
来年令和9年5月25日で国宝指定から90年を迎えます。この節目の年を前に、地域の宝として地域を挙げて大

切にし、後世に伝えていく必要があります。山千寺史跡保存会では地域の皆さんに山千寺と観音像のことを知ってもらい、山千寺を訪れてもらえるような取り組みを進めて行きたいと考えています。

その一環として、山千寺と観音菩薩に関する情報・話題などをコミわか広場などを通して皆様に提供させていただきたいと考えています。地域の皆様のご理解とご協力を切に願っています。

更に、皆さんには国の重要文化財と市の文化財の保護保全の担い手として保存会の会員になっていただきたいと願っています。

(山千寺史跡保存会)



広告